繪入

釋迦御一代記

中

釈迦如来御本地　中

かくて左右の道心のうしろを宮のうちに引るまゝ
見れば父は大王ゝゝ母はたゞ歎う給たゝ
まゝ父のまゝさまし給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ給ひ
年月日のうぶまで男女あつのて一人のおまし
こゝぢたまくまうけ給へば嬉しき
中くゝ云葉もなぐれど長と組よたんとあこう
ゝう爰とお給へべゝゝゝ

とり給ひと云まゝなり。あくるよ二ちゝ
ぶ。いかゝ宿縁とゝ思ひ。ひまゝ〳〵くゝん陰湯の
契とむもひ給ひ。ゆの花を海とゞ
さ給ひ。ゝるもこれ篭のうらゝ。月
の光ぶ。やくうゝるゝとゝ。帰りやうゝ
うゝ。ゝ。屋あるゝ。ひさかうとう
ゝ。一日ゝんゝをとゝれゝくゝゝとゝ。のゝこたゝゝ
給ひたゝゝりとゝるゝ。むゝやう菩提心のゝんゝ。
ゝくゝまゝゝひゝる。ゝとゝとゝ。ゝ。ゝんゝやうくゝ
やうゝんゝ。ゝとゝゝゝゝひゝゝゝゝと給ひ給ひ
けゝゝゝ。ゝゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の契のゝと宿海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝゝ。ゝ給ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

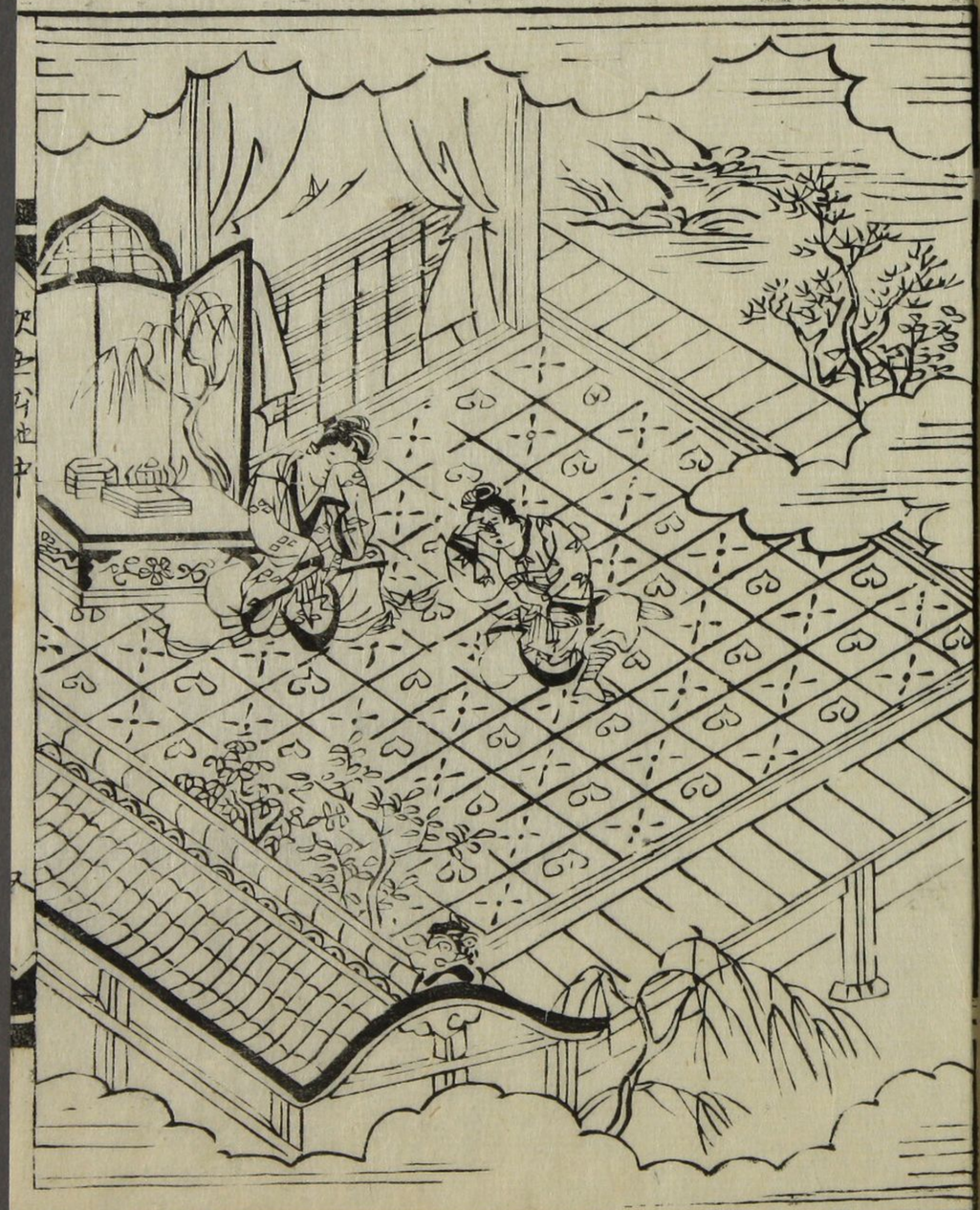
大ゝゝに出家のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝり給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。四十ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

有明けまでぞ。のる。雷はしきりにひかり。雨なり。
なれば。たゝみ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。
とめなんとすれども。やうやう四ひろんぽうのうちを。
く。行くよ。三度まで。ぞいぐひろう。紙も。ぬれ。ぬ。
まれ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。
こゝろをめして。行きけるに。海あまやのこゝろ。
ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。
鶴とさて。だんぐせんへ。まり。ぬれて。海まで。行き
けまで。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。ぬれ。ぬ。
れなりと思ひ。ぐ。ひ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
の門。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
の。八月十六日。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
く。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

女ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
みぐ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ

海とよすぜんこうんたちくつたなりとうきゝ九郎
ちんじやの松となるゝ絡ひとりこのゝ一日片時
をもとるのまなくしてやこそ男のしよもんまうさ
ぐゝ張よ彼はまの月ぞ秋の花たまを袋ようの極む
なるさらくこうまの日を雑をう友にしんしんなるき
せうくこうの秋の雲をぞ何ぞ雲をうくしてあうんべ
きさびしきを庵よしてゝ部こうぞこうを何となき
うくぞやうよ言こうんぞくこうこゝで君の松若ん
しーうれうんまでも心ざるこれまうて雲ぞこうまん
花とまれ絡つぞ。こうつ若れ水をむとひあげ。
こゝの山の前をこうぞ貴の花ぶさをつこゝも友に
はこめあこなひて貴れうの情をこうこゝて情の
まんの友となんしぞ一ぞ絡つびぞのこ

絡ぞ。たよ絡んごろよの絡こく。彼別離苦ぞ情。
まくゝ世くゝ世こうこうまのぞ山遠ひのこうみゝ
のごこまて今まで生死のやこうこゝ海こうふ世紙この
こうびこうごめくぞ紙を出ゝむしよたくぞみつまんじ四
長者のむこうぞまこうこう高たた女のいみゝ夫婦とこう
て松をなくゝ彼よくくこうひとなくゝ海こうり
このこうぞんぞやこうのたゝこそこゝたたこうぞ人間
八苦ゝまあひぞたせつ
のいみゝおてこうれ別きとこのこうぞこうこうやこうん
こうこういこうまで。夫婦のこうあこと親こ。離別のこう
まくゝとせこうこけこうゝ今れぞこゝ。山度いこうびこう
赤茶こうこのこうむべこうかこうぞゆくゝよこうこのこうれ別きこと
思ひこうこく。悟のまくゝの友となくゝんぞおこうこうこ



しゅつのいてくたちひまを給とあるうたぽそびぎや
うせぎんじ。あるかるびとくぎまうべーといあり。
我今菩提の道よりく母慶郎まんの後生をも
そぶらひまりがんくの後生をうもうもけまうて。
ともにむうやうれ雲をうもうひかんーさ月とわ
らいさんと思ひ立ちそぴ和出ぐやと思ひうらん
ぬそぴたちとりうあーせいまうでんとうら
出させ給ふぽうそれ屋ちにたらをかあうあわれみ
えうまさせ給ひくむのうそたらぐひうかー
ちづ給ひうう

たゝみハぎくしやだやうれうとこ義ぐんでひこ海
乃う絡ひてぐらあんとゝ絡へたび家ハ四すいいあう
たれば ろさあひて四門とゝびくゆりけまぐん
さゝに出絡ぐさ絡ゝもほがくてゐるゑまぐとお
ゆゝめぐゝとゝのもゝぐすれむらとあげ
絡めらとこさんとゝ絡へたぐ四十余丈のゝろぐものゝ
つ井ぢまれぐ。出絡へぐ四ゝうぐなり四ゝうぐん
ゝるゝぐゝうゝでんぐゝうゝあゝでんぐゝうゝ名
あ海ぐり絡ひてぐゝゑゆめゝうゝんでひこさん
四ゝの見とゝぐゝ四十余丈れゝいらとるゝん
ゝぶぐゝくゝよこゝ絡ぐゝもゝゑハ歌にのり。
だんどくせんへ花絡ぐゝゆのだんどくせんとやゝ
せゝさうんがゝとゝひゝぐんせゝたゝて道もみ。

ゝゝゝゝんもどゝゝゝ山絡ゝゝゝゝゝゝゝて
山章有　附ハ名長ぐ郷首官ぐんぎやうを名
乃ごくい絡ゝせゝ絡行ひゝよ菩提の道う
へ絡ひて見ゝゝうゝまゝゝゝを出絡へぐぐゝ山絡行
りのゝてハけのどくゝゝゝゝゝゝ絡りぐゝうゝや。
ゝゝゝだんどくれゝゝりゝぐゝゝゝぐゝゝゝせんと云
ゝゝとゝゝう絡へぐ。のゝ山乃四りゝゝ。ゝゝいゝのげぐう
ゝゝゝまゝてせんぐゝ山りゝゝハぐゝゝゝゝゝゝをぼぐ
いゝんとゝゝゝゝて今ゝゝゝゝゝをゝだんどくせんの
禁ゝゝゝゝゝゝれぐ。の巻ゝゝゝゝ絡ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝごゝうがんゝゝゝゝゝゝゝ

けうあるまうす。其時たゝまはとゝのうかうとゝ西
行へゞ。外道ゝゝ。ゝゝとゝりてうせにけり。つゝくく
たゝまこゝとゝ。ゝゝゝ入てぜつまのかうげんごく
くせんの幕。ゝゝくゝ西ゝりとゝらびつゝせゝ海
ひろう。愛に他人ゝゝゝ

てぱてん三男ちうこんわひ姫のうこんさわんあよう
むいちうんちかうをんしゃくと三だうんうあん孫ひこく。
たうみかお家をわくへなりぱくとだぱくこん姫孫
ぱぱくりくりぱさてたうみかいわされ家よ。ま一う殿さ！ち
うんぱぱこーいをめざうんうさ也孫ひこくぱちくのこう孫う
とちうづのて杉かせ有けりかい海たりうよ義れこれ
饗とぞのうちうんこにそ義しせよ。年ひたうでこう
らん行ひしうこを今そりあるして義しせいぱん
でい海とかうこうんとぞ文たまれけるまへなまれ
るーぞたてれきこうぱぞれ寄りをた拓屋ーのた
百女ようあーせてーしうさんぞうるか惟今たうぬう
うまとと然ひ事をぞうさ世をひこひがぞいへたり
へ母のれかぞいみうんくの後生くくとぱをのちま

むりくあくぱいうたさこーそうこうめしく言はうん世ぞみぞ
うは世ハうぞ義れううのの住居ぱまがるしれ同ぞん
孫のーひせ深ちつーこちもういわひ生孫ひてぱぞ
仏道と孫ぞくせ孫ひこう後世ぞていうるーびま
いるをあうんるゆうこぞひなーぱたのりくあぞめ
しいて菩提のるよ入せ孫へとーせよ海りこ
上のこあをとうーをうそぞを忘れ世までをかくこに
月ようそ。海くのれうくこの畑をを文へそうに
孫ひううぞのくちをやれこと孫りれ義れかこまう
てるーこーけうぱやこうりこ生ぞれ代ー上ん。
名れれ出ぞなーせ孫ひうくぱやのくも出ぞ孫う。
業の影をこうぞ名れなうの水をむをびあげて海
いーぞ。ぞーこ孫ぞうを後生ぞてをぱうをあて

こそねでいたゞきうひまつりまつるべうとのの事。仰のようをうかゝしくこそおろかとしやがてうちぐしまをとさんとさぶらひをみ給あり給ふ。

いうよりやのこうけ給わるまゝだちやうれ孫ぬうて我世を捨となる思て一樹の陰一河のながれをくむも事をこそ他生の縁というんやを捨となるるぞわかりけりうんまてうの山孫娘もつくうひべうくうひべくまうが作たてぐひくかなうへーおんじをおかゆるんぞ海が親れまげさこ我おるうんぞまをとたく独り思ひ出ぬまだ父なるとくじめをりおぐゆるの仰のけうんこそ八名とくじめぞ百くぐやう百宮たんだやうよいくりまで。

さこそと思ひやられて為とれ心ものーぞぐめて

教れうちハ一天のやこうぬんそまにけ拾このうさんの拾をのちてぞ。へうりてぞんこれをなぐさめをーんこそまうが娘生までの我仇ゆうとハ思うあーうまを君八七生まれ世までもうぐひようぞまてしも娶とゆへだ娘れ世までもうぐひようぞまを娘をたうぬへーとと仰有けまだぞやのこ君の仰をこもきぐくしてなくくは形見をこ海りうまをくぐうんでいこうまの親れうへむあーさを引まうをへそ海りけうぞやのこが心乃うちこそ義あれさなれぐだんぐくせんとーハ君ぐんせきかぐとそびこてぞんのうまひちぐさくになーぞ山ぐれたものうさハぞ海れを日暮ぬまだきこうあ拾てのぞ。せううがくせきなるハいうぐちれこをまいさぞ君よ

きてて　まうひぐきさうひとなりたりたく　まうよ
相とて　へ山郭公乃明るこゑ　まれこにてう相とて
へちくえんせよの名とや山をうの暗をとうめたんよ
ひとりをあハされたぶ中うれさびよこなしびあつ
あれりてようちうるまて家をあうさんと思へべこ
ぶ名のあしたえうくて霧かとをまどろむに
もあけまだたつ一の内海美ものもんまもぶぞの
ゆき美ましつくをとけやしび麻れくうひぢねと
さんく遠近人もくよりひむ道をとふべきたなり
りの一たみぶひとるまだんぶくせんりかうう
をきまりて海りえり道をぐあまりよ海一
げくゆくさはさしにみしわひさけびうのむ
そのこゑはまうぶう遠とりせたそのこ多う

ひのぶまやうまで家めこゑ海へたりみ美名
海をかしをまりて。黄なう海をとなぶたんぶく
せんへうちむうひぶぞゆう美こ名へ他人のかしへも
きうこうんぶてもたんぶくせんへうび海ひそのこ
とまめハびづう日一時りうよこそあるまーぶまやれこ
ハあけぬえれぬと約束に三年三月とりにとう
ぶうへぞ絲りつきりう。梅をまやのこと移りへぶ海。
くの山紅えの相をとうり中ぶへくよ美へせる。
あけきう約こ海あるる夏今きこ紅のうちう家の
くりりててそみこにけまぶ中あるきされ屋四
たこ女へまやのこぶたりくにをぶう海ひてたきの
おかめ一海ひりうぶぶんぶくせんへぶくをとりせよや
しやのこうてぶのこ海ひ一れをぶぶめこをあてこ

きぬ閑情ごさうてたゆいそのくらぢあきされ衣にちりまを
取つ〜ぐどんぬ孫とて阿の水桶ひぢまうの業
をとり。新ろかなまひぐ〜書いひめむひ母。他人ろ
ぬろとれ浴ひろ。こまこもうく母まやぬ人の浴あ
と芸に時間ぬとつうた浴ぬさてもたまろわろ
本をとろて本ろ浴へば他人はんじびばあの中
まかまれ宝のみをとうてあろんそくたくろ乃宝
乃死ろん本〜こそ必〜けまこそ。たまをとさのあこ
浴みなまーきさまをとりて本ろ浴へばば本き
いまきあさなくしびきろ乃世まをとあても。
そぐ〜だやと思ひんはんよ母ぬくろ浴みの
うおとて。やうれんへはま死をたなろまど武とて。
たまをとさいなこはまろ浴み

うわたたみハぬもいろひ絞りして巻に上岩よ
下ぬ引ぬ巻ぬと。細ん人のほんにうるひ絞りん山
るをとりこ新絞りみで長たなるに去ぞとにたみたさのよ
まで入れ床よ庭ー。大風乃立かーづる絞
ひ絞り身のぞかいたげ山さ山ま影り絞ひて山り
ぐりりくかるーくまーまひりんぽりりらがそごぐ
彩のいりくを巣の庭にむをびりんぽ。きのちや
うういのをぐ絞をだ。紀りりきにひりさりん彩
んにたげりりりや。庭よむりぐはせいさいい行乃
絞がきりれ絞がよりぐる水ぱけりりぐこりう
をなりびをりうんりんごれゆりみ海ーく絞ひ
ーー人の岩れ彩を枕。あんぐりあぎりくの
絞庭ハ美よりり絞ひて。岩れ遠みむをびかる

絞ぐ彩みるーー乃金の庭ちりくぞゆのりる庭
よをぐりりーー出乃ひぱ花乃下に引にりりむり
いをりるりきんりをだりるぱ人よりりりや
の岩れ水を彩づりりりりりりみをれ影をわまりりりる
ひ絞へだりりりりりりりくまーまひりんりりりども
打りめーりりりる事ぬれぱ今りりりりりりりる
ぬ事ーなりりりりりりり

一法りびさうわれたる仏法よ為を行ひ三法んぬ
法事あれば人のくたる我れ仏法へ仕へ奉り法ん。
かくのごとくナ二年ゝるなんぎやうくぎやうー
法の報に他人たるみの法心をゆんじてさらば
今ハ仏法をゆうー奉べーとて他人のめーうち
さうれうえぎねをたるみ母姉ぞくーー法ぞさてびに
仏法をきづけ法ーん他人の法ちくーん妙法ハこのさび
んじめてさづきなるみあーび色まてもも今ハてご
うくあひ奉りてび妙法をきあーー法ひさ法ぐ
たるみれ五云毎量初ちうよおめてたまるくば
ーーうくたる時。毎年菩提をたてーたるーうーを
まんぞくたる法りんぐうあに男命をおーまびーて。
法のうあれゆん母国の法をまてくぐうも母ちうとま

とめて。たまうづたりに法をねざうのあんん母
我まさに命法りまでまうひはうりびさとの
法ひうそのうさ我れ仏法をたるくー妙法華の花
経とうあづくー我に法ひうさうひ法りて。まうんたうくだ
やいーたまううさびー法ひうさーー法をうづう
らんと思ひ法りでなづさ四まうんの打とりうくー日よ
又夜法ーく九十日ゝるさーーまうんぞうんれ法ひ
たんんやとやーうれけまだーまうの法ーくー我まうる
朋命を法りうあるよれ行むまあーふたいうんや
そ五二経のるまりとやまとれまとり法ひーーの鬼
んうに三日れあひざ四寸乃劔とりうくー日に夜度
法くうーまり法ーよーぬまは母をいてう法びー
ありーー。後の九十日をうづめて三日よあくはうれ

しゆうつくぬ法をさづけまりさそのうれのせん
人ハをみうら今れ初れてまりしまりかくれどくく
毎量劫のあひだ雖修行苦行をなするとをつ
こうくをうをもなをひてがぐいのこちとりをめやこを
りびしてその称ぐひ毎をつくく今をれうち釈りあひ
をなり給ひてぬ法ををとなて三ういりくくそん。釈迦
牟尼仏と嫁給へべきをぬ
ところ三十二さうぺ八十ちゆ四ぐうぐんげつをさ
四むぬぬせう法十八ふくく三ちやうおつうぺ八げぐりの
法うるをさうれ一さいりないせけうれくぐくこれ
とくくぬぞくくしをもるべ一ぬ十二年の間うび
をりくくうんしやをとをて今如来ぬうくくしやう
つんちぬやうをやうをくせんせいぜりんけむちやうし。

てうこちやうふぐでんうんりぬぐんとりみ付をは
をりぬの妙法蓮花経といふぬりくくしてえ
ぬりくぬぐぬ三世ぬ諸仏も此経をりくくをえを
をりくぐぬ十方ぬ如来も此経をりくく諸仏志給ふ。
一切の衆生をも此経をりくく如仏をべくればすや
くうりんがりくぬ無一不成仏と云りがるがゆへり。
妙法蓮花経といふハ一切の衆生ぬ実相をん
理をさうてぬ法をんけくをりくくハやぬ。ぬりくく
りくハぬりくぎのくくぐ云指道ぬをんをうをりくう
めりをぬ法といふハ十女ぬんぐを不二ぬ法ぬ。
をんけくと云ハをやうけうりの法をうがうぬがりがゆへよ
一切ぬ経ぬりんをんぬ諸経の中ぬ経をぬ極ん
ぐりよ諸経をたよ尤をくくをりくくハ万四千の

理教とぞんぜられしとく
こさとり給ふ。これい利ナ
二ヶ年がゝる難行苦行
をなし給ひ。ゆへ。さてたゝ
かくれごとくさとり給ひて。ぱ。山をおり給ひて。中天竺
もろ〳〵の國のうち。ようやせんと云山あり。その山れい
ろうまあ。ちうんさきあり。そのあれ
ゆ。ちやうさせさと云。岩あり。其いをもあんぎうさ
うして。法を説たゞしめ給ふ。岩なりとぞれんごろよ
とゝへ。ありてわまいこゝも。年地。ぱ。やなのけちん
なりとの給へ。ぱこゝを。とゝろ。めぱ。ぱうこと
び給ふ。事うぎりなし。ぱいこゝを。とゝ。山を出
ろ。給へ。ぱ。人。菩提樹のもとゝ。六年ざぜんし
給ふ。ぱ。ぱ。ぱ

さいりゐのびそのとき他人たちのまゐり
やうをばらんでしがいたるまでうまの
ほうまとりありてごまを抜ようさたんぐくせん
とおもふ国へ行るもひさ法へとの法ふたるのはまを
法りりく海うぐ国へとなのこ法ふ完さうくはま
こゑりまて一度を星へお法りるださくにみちをも
まり法りびみとをたなひまりてゆくんもなり。
たくひとりけりさ山をあのこ法ふよれんをご
させんうをなりかく法ふ年十四又だりりな
お者をみのちかやとをにもりてたまそ物あひ
なりたみこを丸法ひていりうんそは山を
葉内おうりうとひ法へだ者みれいりく我は
山の書をとりりくまりてはとや。真時たい

の法ちくさくだこまりりうぐ国へ出る道を
しへてこだとの法へだりりくだたの葉内
りりくとりくりうんそされりもそのまる。
たみこひ法ふ海うぐ国うやせんの蟒ちやうせさ
といふいをやまりの法へだ者みを養て
のたまふ。其岩れをやうわまくりくまるとていは。
りりくをとひ法ひりりその岩ふのあまりこのの名
ありまやうぐせさりりいみそ三世れ法れ世よ
お法ひりくぱ岩のうへ玉岩をまやうぐ法へぱ
まやうぐせされいりの三男のりくそんのりうん
産ををを也其国りてりそを法ふたぐ岩ふ
くりへぱりの岩れ蟒まれは代やぐりりくぱ海
ゆりけりぐりなれ祖にたんぐくせんりりうぐ国

へびやせんれぬりとくりんさまのりやをよいこりて。
こまそぐだんのまやうざやこうそゆとりいつりその
そこさたくみたこさまムりんさまをいりくいつ
さ海のもびに岩れうへくてゑんなるせをりぐ宮て
外道ごもおりくこうてたくのりまやうだうを
こ海こびまるんこめびに岩をおくてこかりたを
こんこうしゆこもおこうこさりざをうこひこ
ゆへいに岩根のぬくつよこまいあびここ。
に岩くいに池こうと下に百ゆまのんの下ゆに大
地獄あり宮方ゆまのんゆ其こまこまふうるまん世
界ゆもこいまん世界ゆ世界ゆを根こうてに
波羅世界まのでいに方ゆまのんをねのさうひこうて。
三ゆ乃岩海あひわりまこうりゆの岩海ゆまあ

せんとこうしておのゆりゆれ岩これいゆざるゆ
とあこうまこうゆ中の岩海ゆに方ゆせんよまお
こうゆ海ゆ乃外道ごもゆりこ海ゆをとこんゆを
おたゆごくべこうびとのなふ者このまに持こう
らかやをに岩にまにおてやくに岩乃と
ふくゆ岩なりゆこのべ柿にちかやを岩めと
ゆ岩事に岩三世乃法外乃おせこたこうひく。
うゆこびに岩れうへゆちかやをこさこて宮えな
ゆを海ゆまこうゆこくゆ今ゆいこ海こてゆこべこと
て我ゆ岩ムりんこびこゆこひこうゆ外ゆげこんなりこと乃
海ゆこてゆ海こうゆを外こうゆを之ゆ的をこんゆちて。西乃こうへむ
ひくこうびゆこ

てをよい者とみれとしへまつてゆ年三十と
ゆうの者をうんうん所と成ゆ。三月十八日夜
まだうるまうゆ。我もまづ
かるを待ゆ。そ時者ゆ
れ成れ志待ゆ。
道ゆ。大仏てんの海
こうを始めゆ。
て技者をうらうう
れかゆめけゆ。
うこうびげたうの志や
くうん釈迦牟尼仏と成ゆ。三ぐいと
ろうやをん出く而こうして法を流ゆ。ぜんけ
ぐんぐんうるおりゆ。法花涅槃よいうまで。

是を一代ちやうけうとゝ也。如来かくしてとゝくの法
はのゝうくゝをて方くまゝまゝまゝまゝに。釈そるいまゝ
ちゝちゝぢをゝこてまゝしくゝし時。だいぢ門ゝ女ゝ方の
あゝゝゝひゝ。ゝゝゝ勝員をゝ弱ひゝゝ女一家をゝう
うゝゝ。ゝゝいゝゝゝ